

学校関係者評価報告書

学校名：あいちビジネス専門学校

<p>1. 学校目標</p> <p>(1) 本学園の建学の精神である「社会から喜ばれる知識と技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」を具現化し、社会人としてふさわしい資質をもち、社会発展に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(2) 社会・企業からのニーズを取り入れ、必要とされる最新専門知識を修得させると共に、社会が求める人間性を培い、周囲から信頼され、健全な社会感・人生観を持った人材育成教育を実施する。</p> <p>(3) 変化の激しいビジネス社会に対応するため、企業・関連団体との連携を密にし、日々進化する社会に対応できる考え方を持ち合わせた人材育成を行う。</p> <p>(4) 教職員は、学生の伴走者であることを自覚し、学生個々の将来像を見据えた教育を行う。</p>

<p>2. 学校目標に対する評価・意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業やデジタル教材の推進など、急速に変化する教育環境に合わせた対応を行いながらも、学生の立場に立った運営や取り組みをされていると思われる。 ・少子化が進行する状況にあつて学生数を確保するには、高卒者以外の新たな市場を開拓・開発する取り組みが必要であると考えます。 ・教育の実情に合ったカリキュラムの見直しが進められており、より良い教育効果に繋がるものと期待できる。 ・在学生1人当たりの平均資格取得数並びに上級資格に対する受験率の向上実績は、ビジネス専門学校として大変評価できる。 ・学生支援は、対応に時間と手間がかかり大変だが、課題を的確に把握され具体的な改善策を立てていらっしゃるため、今後の期待できる。 ・コロナ禍の難しい状況下、きめ細かい学生ケアによる退学率の大きな低下、授業外の行事への学生の参加促進策など、改善への取り組みが結果に繋がるなど、学校目標に則した活動がしっかりと目に見える形になっており、評価できるものと感じる。 ・運営・授業の両面でさらなるIT活用が課題であるとの評価だが、学校の「対面」の良さにも引き続き取り組んでいただきたい。それが差別化でもあると思われる。 ・外部の教育研究会との教育連携は年々拡がりをみせており、また実施内容も時流にあった内容を提供し充実されていて、さらにニーズを捉えた取り組みが期待できる。 ・教育目標、重点目標及びその評価、課題認識など、適切になされているものと判断できる。課題も明確で今後の取り組み内容も検討されていると思われる。

3. 学校自己評価報告書についての評価			
学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取り組みが適切か	今後の改善方策が適切か
	4：適切な評価である	4：十分適切な取り組みである	4：十分な効果が期待できる
	3：ほぼ適切な評価である	3：ほぼ適切な取り組みである	3：ほぼ十分な効果が期待できる
	2：やや不適切な評価である	2：あまり適切とはいえない取り組みである	2：あまり効果が期待できない
	1：不適切な評価である	1：適切とはいえない取り組み	1：効果は期待できず、改善を要する
基準1（教育理念・目標）	3.9	3.9	3.8
基準2（学校運営）	3.8	3.6	3.5
基準3（教育活動）	3.6	3.6	3.6
基準4（学修成果）	3.6	3.5	3.4
基準5（学生支援）	4.0	3.4	3.3
基準6（教育環境）	3.8	3.8	3.8
基準7（学生の受入れ募集）	3.9	3.9	3.8
基準8（財務）	3.9	3.9	3.9
基準9（法令等の遵守）	4.0	3.8	3.6
基準10（社会貢献・地域貢献）	3.8	3.3	3.1
基準11（国際交流）	3.7	3.7	3.6

<p>4. 今後の改善方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの見直しにおいては、企業ニーズをより敏感に反映した内容となるよう、大きな枠組みだけでなく、内容の細部も精査見直しが進むことを期待します。 ・将来の職業を見据えて専門の知識を習得するために学んだことが、実際に就職して必要がなかったとならないような観点からカリキュラムを検討してみたいかでしょうか。 ・資格取得は大きな評価軸になっていますが、取得した資格およびそのための学習が実社会で役に立っているか、卒業生にヒアリングし、カリキュラムに反映するような取り組みをされてはいかがでしょうか。 ・現場が欲しがっている人材のすり合わせをすることでより具体的な人物像が出るのではないのでしょうか。病院の採用担当と現場解釈が違っている場合もあります。面接の際に病院から確認をされる部分ではありますが、事前に分かればさらに就職した際に有利になると思います。現場（当院であれば、病院事務部）と打合せ等を行うこともご検討願います。 ○まずは、企業や卒業生へのアンケートの実施を準備していきます。資格だけでなく、求められる人物像にも視点をあてていきたいです。 ・専門的な技術や知識であったとしても、就職後に指導が容易なことではなく、関連はあるが専門外であったり、コミュニケーションやビジネスマナーを徹底的に身に着ける等といった所に、企業側のニーズが隠れているのではないかと感じる。 ○社会人としてのコミュニケーション、マナーについてビジネスマナー、就職対策講座などの授業でより一層取り組んでいきたいと考えます。企業への

アンケートやヒアリングの内容を取り入れていきたいです。

- ・デジタル教材の作成については、多くのコストを要する事でもあるので、外部サービス利用や他校連携も含めた検討も必要かと感じた。
- ・資格や業界の知名度向上の取り組みや、トピックス的な特別講座の実施等、単独では難しいことを実現する為には他校との連携が必要かもしれない。
○他校との連携は現状では難しいと感じていますが、今後の検討課題とさせていただきます。
- ・オープンキャンパスでの学生スタッフの活躍のように、外部との接点において学生主体で取り組める機会（例えば、地域の商店への学びを活かしたサポート、卒業生の社会人との勉強会など）を増やし、学生はより実践的な体験ができ地域社会に学びを還元できるようにしてはどうか。
- ・現状で活動可能な社会貢献・地域貢献の検討や活動継続をしていただきたいと思います。
- ・コロナ禍のドラッグストアのように「接客=大変」なイメージもある。地域貢献、ボランティア等で「ありがとう」を多くもらえる場面を作っていただきたい。
○学内にとどまらず、学生が主体的に行動できる機会の提供を検討していきます。
- ・現状では、オンラインで授業は可能であるが、実習については受け入れが難しい企業や医療機関が多いと思います。多くの卒業生が社会で活躍している学校だからこそ、卒業生の力を借り、講義や交流の場を作ることができるのではないかと思います。
○オンラインでの開催も含め実施に向け検討していきます。
- ・経済的に苦慮する学生に対しては奨学金等のフォロー以外に、学内アルバイト等での支援などできないものだろうか。
○学内アルバイトの紹介は難しい状況ですが、学んでいる分野に関連した企業、病院へのアルバイトの紹介を継続していきます。
- ・今後オンライン会議はどの業界でも主要になると思うが、まだまだ苦手な人が多い部分でもあるので、積極的に進めていただきたいです。
- ・SNS を多く活用している。学生も巻き込んだ情報発信は良いと思う。併せて、SNS のリスクの管理についても学生に学んでいただきたい。
- ・シラバスにおける「ビジネスマナー」では、情報の取扱いやネチケットなど時流にあったテーマも組み込まれてはどうか。
- ・オンラインで代替できることについては、積極的にオンラインを活用してほしい。オンラインによる地域貢献等もあるのかもしれない。
○SNS の利用、オンラインの活用、ネチケットなど、更に授業で取り組んでまいります。
- ・SNS を見る人が増加しているため、SNS での発信をより重点的に行うことが良いと思います。
○学校の様子を知っていただくためにも、引き続き SNS での情報発信にも力を入れていきます。
- ・少子化が進む中、卒業生の再教育プログラムを中心に社会人向けオープン講座の実施も具体的に検討されてはどうか。
○今後の検討課題とさせていただきます。